平成28年度 第2回青少年クリエイティブセンター運営審議会

日 時：平成29年2月13日（月） 午後6時30分～午後7時30分

場 所：青少年クリエイティブセンター 3階 視聴覚室

議 題：平成28年度利用状況について

平成28年度事業報告

平成29年度事業予定について

その他

出席委員： 上田裕彦、太田垣徹、大原猛、西川陽子、加納佳代、大庭健、
田端美恵子、狩俣正雄、上坂純朗、前田明子、宮本美紀

事務局出席者：木戸誠 （地域教育部長）

前田隆男（青少年室長）

尾高関持（青少年クリエイティブセンター館長）、植田陽介（同館長代理）、

笹原裕司、井崎健史（同主査）、野田彰人（同係員）

1、事務局あいさつ

2、運営審議会委員委嘱

3、青少年クリエイティブセンター運営審議会の公開、傍聴について

青少年クリエイティブセンター運営審議会は公開することとし、委員数15名のうち過半数を超える11名が出席しているため、吹田市立運営審議会規則第4の2に基づき成立していること、及び本日の傍聴者はいない旨が事務局より報告された。また議事録は公開し、発言者はA委員、B委員、事務局等と記載する旨が了承された。

4、議事

A議長 それでは、平成28年度利用状況及び事業報告ということで、事務局より一括して説明をお願いします。

事務局

それでは、平成 28 年度(2016 年度)利用者数についての報告を事務局からから、28 年度事業報告を事務局からさせていただきます。

報告の前に 1 点資料に訂正がございます。資料 2 をご覧ください。

わくドキ社会見学の内容に記載しています神戸市内にある製菓工場ですが、正しくは京都にある食品工場です。訂正の方よろしくお願ひします。

資料 1 平成 28 年度(2016 年度)利用状況をご覧ください。これは昨年 4 月から 12 月にどれだけの方が当センターを利用されたかという利用者数の資料となります。28 年度と 27 年度との比較がしやすいように、数字と対前年増減率を併記いたしております。限られた時間ですので、すべての数字を読み上げることはいたしません、どうかご了承ください。

最初に青少年会館利用者数です、青少年会館とは今会議を開いておりますこの建物を指します。幼児とは 0 歳から 5 歳までの就学前の児童でございます。その幼児が年間で 1,266 人、そして小学生が 8,558 人、中学生が 672 人、高校生が 640 人、一般の方の利用が 1,810 人ございました。

次に教室・講座への参加者数です。英語教室は延べ 402 人の参加がありました。手話教室が 91 人、工作・折り紙教室が 179 人、クック・おやつ作りは 124 人、パソコン教室は 235 人の参加がありました。

乳幼児向け教室事業は 3 種類ありますが、その合計参加者数は 756 人でした。

そして子育て・こころの健康相談につきましては 33 人の方が相談に来られました。欄内に線が引いてあるところはその月に実施がなかったことを示しています。

青少年会館利用者の小計は 14,766 人になっております。

続いて体育館の利用者数について報告いたします。幼児の利用は 554 人、小学生の利用が 7,505 人、中学生が 2,386 人、高校生が 1,382 人、一般の方の利用が 2,471 人ございました。

次に体育館で行われているスポーツ教室とサークル活動の年間延べ参加人数でございます。剣道教室は 1,232 人、柔道教室は 291 人、バドミントン教室は 486 人の参加がありました。

続いてサークルです。ソフトバレーが125人、バレーボールが167人、日本拳法が623人の参加がありました。学習支援事業として行っているぐんぐんネット（バドミントン・バスケットボール・かけっこ）には190人の参加がありました。体育館利用者の小計は17412人になっております。

次に運動広場の利用者数でございます。幼児が4,731人、小学生が4,524人、中学生が2,296人、高校生が1684人、一般の方のご利用が7330人ございました。また、サッカーサークルの参加が1,163人ありました。運動広場の小計は21,728人となっております。

これらの小計を合計いたしました12月末までの利用者数は53,906人でございます。以上で私からの2016年度利用状況についての報告を終わらせていただきます。

事務局

続きまして、平成28年度事業報告につきまして、事務局からご報告いたします。なお、失礼とは存じますが、座ったままでご報告させていただきます。

では、お手元の資料2「平成28年度（2016年度）事業報告」をご覧ください。

まず、資料の説明をいたします。資料2は通し番号2から5まで全部で4ページです。一番左端に大区分があり、次に小区分、そして事業名と続きます。一番右端のアンケートの有無についてですが、利用者アンケートを実施した事業については「有」と記載しております。また、数値につきましては12月末現在のものとなっております。なお、事業報告に併せてスライドでも紹介させていただきますので、併せてご覧ください。

では、改めまして資料2をご覧ください。

青少年クリエイティブセンターでは、吹田市立青少年クリエイティブセンター条例第1条の設置目的にもありますとおり4つの目標を掲

げております。事業の運営に当たっては、人権課題の知識理解に留まることなく、利用者一人一人が人権尊重を感性として育み、それらが日常生活の中でどう自身と関わっているのかを考え、気づき、態度や行動として表れるよう推進しています。また、計画段階で設定した事業の目的をどれだけ参加者に意識させることができたのか、伝えることができたのかをアンケート等で集約するとともに、事業に関わった職員同士で振り返り、成果や課題について共有し他の事業や次年度の事業へ反映しています。

では大区分「学習活動の推進」の小区分「体験活動事業」です。

まず「竹で遊ぼう」です。吹田の特産の一つである竹をテーマにした事業で、北千里にある吹田市自然体験交流センター「わくわくの郷」の竹を使い、バウムクーヘン作りに挑戦したり、竹ぼっくりで遊んだりしました。また吹田市内の竹の分布や竹の種類、竹と笹の違いなどを学び、竹を身近に感じました。

次に「わく♪ドキ！社会見学」です。今年度は「食」をテーマに2回実施しました。6月には京都にある食品工場へ行き、身近な食品が口に入るまでどのような過程を経ているのか、どのようにして安心して食べることができる食品を作っているのか等を学びました。10月には「インスタントラーメン発明記念館」へ行き、工夫や気づきの大切さを学び、また本事業を通じて社会には様々な仕事があり、多くの人たちが関わりあって成立していることを知る機会としました。

次に「リバーハイク」です。高槻市の摂津峡公園にて7月に行いました。川の中を歩くだけでなく、現地周辺の動植物の観察なども行い、自然との共存について考える機会を持ちました。流れが急な場所や深い場所もありましたが、参加者同士で手をつないだりしながら互いに協力し、励ましあって全員無事にゴールすることができました。

次に「元気きつずまつり」です。夏休み明けの8月28日に実施しました。きもだめしや、おやつと飲み物を提供するカフェなどを行いました。スタッフに応募した子どもたちを中心に、夏休み期間を通して準備を行い、時間と手間をかけて一つの行事を作りあげる事の難しさ

や、やり遂げた達成感などを体験しました。

次に「しめ縄づくり」です。「エコおもちゃづくり市民塾」というシルバーアドバイザー養成講座を修了された皆さんに講師をお願いしました。しめ縄の由来をはじめ、季節ごとの伝統行事や昔の生活についても触れることができました。

次に「てがるにクック・おやつ」です。月に1回程度行っています。カレーやサンドイッチなどの料理や、プリンやラスクなどのおやつ作りを行い、また、レシピを配布して家などでも料理に親しむきっかけとしています。

次に裏面、資料の通し番号3ページ目になります。

「野菜づくり・収穫」です。きゅうりやトマト、さつまいもなどを栽培しました。水やり・草抜きから収穫まで子ども達自身の手で行い、収穫した野菜等はその場で簡単な調理をして新鮮なまま食べたりしました。また収穫した野菜を「てがるにクック・おやつ」の具材としても使用し、食材について知る機会としました。夏にはゴーヤを使った緑のカーテン作りも行い、環境問題について考えるきっかけとしました。

次に小区分が「養成事業」になります。

まず「手話にチャレンジ」です。各学期に1講座開催しています。延べ参加者数では平成27年度と大きく変わらないものの小学生とその保護者が一緒に参加する姿もあり、講座の最終回には手話で自己紹介する場を持つなど言葉以外のコミュニケーションツールに触れるよい機会となっています。今後も参加しやすい仕組みを考えると同時に、手話を楽しみながら身につけられるよう内容を工夫してまいります。

「チームぐんぐん」です。こちらは学校や地域・社会でリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的に、3月までの年間を通して実施する事業です。キャンプや研修などの行事の企画・立案から本番を経てふりかえりまで、子どもたちの手で責任を持って行います。また、体験活動事業「元気きつずまつり」においてスタッフとして活動してもらい、おまつりを盛り上げました。

次に小区分が「学習支援事業」になります。

まず「学習会」です。チャレンジという名称で週1回金曜日の午後4時30分から行っています。また小中学生でダンスチームを結成し、3月の子どもクラブまつりでの発表に向けて毎週土曜日に練習を重ねています。

次に「自習室の提供」です。朝9時から夜の9時まで、高校生以上の方が自学できる場を提供しています。

次に「パソコンクラブ」です。2学期と3学期に1講座ずつ年2講座行っています。小学1・2年生のクラスと3年生以上のクラスに分けて行い、名刺やポストカードなどの創作活動を通じてパソコンの操作方法を学んでいます。

次に「英語教室」です。アメリカ出身の講師の指導のもと、こちらも小学1・2年生と3年生以上のクラスに分けて実施しています。各学期に1講座ずつ年間で3講座実施しています。教室では英語を使ってさまざまな遊びをする中で英語を身近に感じるとともに、クリスマスなどの異文化にも触れる機会としています。

次に「折り紙教室」です。吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」登録団体の「折り紙玉手箱」のみなさんに来ていただき指導をお願いしています。今年は月に一度、季節感のあるオリジナルのカレンダーづくりを行っています。

次に「工作教室」です。折り紙教室と同じく吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」登録団体であり、体験活動事業「しめ縄づくり」でもご指導いただいている「エコおもちゃ作り市民塾」の皆さんの指導のもとで夏休みにモーターで動くロボット作りを行いました。

次に資料の通し番号4ページ目になります。

まず「ぐんぐんネット」です。月に数回、土曜日を中心に開催しています。バドミントンやバスケットボール、科学実験、かけっこ教室などを行いました。科学実験についてはア高等学校の先生にボランテ

ィアとして関わっていただきました。

次に「子ども劇場」です。当センターの英語教室の講師の方と異文化に親しむ機会としてゲームやクイズなどをしながら英語に触れる機会を持ちました。

ここからは大区分「交流の推進」になります。
小区分が「利用者交流事業」です。

まず「バスケットボール 3 オン 3 大会」です。中学生以上 29 歳までの青少年を対象に、6 組の参加がありました。「自分たちの」「自分たちによる」「自分たちのための」大会である、という趣旨のもと企画を行いました。審判やスコアラーなど、参加者全員がチームの垣根を越えて役割を分担し、コミュニケーションを図りながら活動していました。

次に「親子ふれあい体操」です。各学期に 1 講座実施しています。マットや平均台、ボールなどの道具を使った運動が中心です。

次に「すてっぷこっこ～親子であそぼう～」です。1 学期と 2 学期の年 2 講座実施しました。運動会や絵本の読み聞かせのほか、七夕やクリスマスなど季節にちなんだ工作、リズムに合わせて体を動かすなど、3 歳以上の幼児と保護者が一緒に楽しみながら新しいつながりを作る活動を行いました。

次に小区分が「教室事業」になります。

「剣道教室・柔道教室・バドミントン教室」の 3 つの教室を行っています。スポーツに親しみ、上達することだけでなく、相手や道具、場所も大切に作る心も磨く指導を行っています。

次に小区分が「自主活動支援」になります。

まず「サークル活動」です。ソフトバレーボールや日本拳法、サッカーサークルなどが活動しています。

次に「ファイトクラブ」です。中学生を除く 15 歳以上の利用者が対象になります。青少年クリエイティブセンターの設置目的を理解して

もらい、人権について考える機会を設け、差別のない社会を目指す青少年の育成を行う場を持つものです。

裏面の資料の通し番号5ページ目になります。

次に大区分「子育て支援の推進」になります。

小区分「人権講座」です。

まず「利用者人権学習会」です。新規・更新の利用者だけでなく、保護者にも青少年クリエイティブセンターの設置目的や活動の趣旨を理解してもらうようにしました。また身近なところにある人権問題について考えるきっかけとなるとともに、青少年クリエイティブセンター職員との信頼関係を築くことができるよう、対話を深めながら行う参加型のプログラムを実施しています。

次に「世界に1つだけのパン作り」です。地域にある障がい者の作業所サに出かけ、パン作りの体験をしました。パン作りを楽しみながら、作業所の仕事や障がい者について知ってもらうという内容で行いました。

次に「すっきゃねん大阪」です。平成28年度は多文化共生について学ぶため、大阪市生野区にあるコリアタウンに行きました。韓国・朝鮮の楽器「チャング」を弾いたり、班でコリアタウン内を散策して食べ物を食べたりと異国の文化と生活の息吹を肌で感じ取ることができました。

次に「素敵に抱っこライフ講座」です。月に1回、月曜日に実施しています。抱っこを通じたスキンシップの大切さを伝える内容で、抱っこする側とされる側、どちらにとっても負担が少ない抱っこの姿勢を体験しています。また、子育て中の保護者同士が情報交換し、交流を深められる場としてこの講座を活用できるようにもしています。

次に小区分「相談事業」です。

「子育て・こころの健康相談」です。臨床心理士の資格を持つ相談員に毎月2回、土曜日に青少年クリエイティブセンターに来ていただ

き、青少年や保護者からの様々な悩みや不安などの相談に応じています。

次に小区分「子どもすこやか広場事業」です。

「くつろぎの場～子育て中の保護者ならびに子ども間の交流～」です。就学前の子どもと保護者が利用登録をするかたちで自由に利用できます。フラフープなどの道具を使って身体を動かしたり、馬の人形やブロック、パズルなどのおもちゃを使ってのびのびと遊んだりしています。また保護者同士情報交換をしたり、本の読み聞かせをしたりしている光景も見受けられました。

次に「自主活動等」です。子どもクラブ活動の中で「子どもクラブミーティング」という子ども達全員が集まる場を設けています。子ども達自身で司会者を決め、進行します。「こんなことをしよう」とか「こんなことがあった」など自分が感じたことをみんなに伝えたり、互いに意見を聞くよう指導しています。

次に「体育館、運動広場の利用提供」です。スポーツを楽しむ場として提供しました。

次に「図書とのふれ合い・図書の整備」です。青少年会館の2階にある図書室の開放や本の貸出しを行いました。整備については、ボランティアスタッフの方を中心をお願いしており、1階の給食室にも絵本などを置き、本に接する機会を増やす工夫も行いました。

最後になりますが、大区分「情報提供」小区分「情報収集提供」です。

青少年会館の3階にある「きしべの歴史展示室」です。常時開放を行い、岸部地域の成り立ちを知り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する心を育みます。

最後に小区分「広報誌の発行」です。

青少年クリエイティブセンターの「広報誌「ぐんぐん」の発行」です。青少年クリエイティブセンターで行っている活動や行事などの情

まず、資料の説明をいたします。資料 3 は通し番号 6 の 1 ページです。先ほどの事業報告一番左端に大区分があり、次に小区分、そして事業名と続きます。なお、今年度と同じ内容で実施予定のものもございますので、簡略化してご報告させていただきます。

体験活動事業や養成事業においては、川や雪、菜園活動などの自然に関することや夏と春のおまつりなどの体験活動、年間を通したチームでの活動を通じて参加者の「生きる力」を育てまいります。

人権講座では「すつきやねん大阪」において 2 年前は平和、今年度は多文化共生に関することを実施し、人権の町「おおさか」を知る機会としましたが、次年度もテーマを決めて実施し、人を大切に思う心を育てまいります。

また、バスケットボール 3on3 大会や素敵に抱っこライブ講座など青少年クリエイティブセンターを利用できる 0 歳から 29 歳までの幅広いライフステージに対応した事業も実施してまいります。

最後に、「子どもクラブまつり」です。この事業は青少年クリエイティブセンターの事業運営の集大成として毎年 3 月に行われます。スタッフとして毎年多くの学校からスタッフが集い、当日に向けて準備を進めます。今年も多くの学校からスタッフが集い、日々準備や練習に励んでおります。おまつり当日はどなたでもご来場いただけますので、委員の皆様方におかれましても是非ご越しいただければと思います。今年度は 3 月 19 日日曜日の午後 1 時～4 時に実施予定です。

次年度も本年度並みの予算は確保できる見込みとなっております。今後とも日々来館する利用者が安心・安全に利用できるよう良好な施設環境を整備し、引き続き青少年クリエイティブセンター条例第 1 条の設置目的を達するため事業を企画・実施します。そして、実施後には参加者アンケートを実施するとともに成果や課題を職員間やセンター内で共有してより良い事業運営を目指し、利用者はもちろんセンター職員も共に学び成長してまいりたいと考えますのでよろしく願いいたします。

A 議長

事業予定について御説明いただきましたが、何か御質問ございませ

んでしょうか。

これは従来と同じ内容でしょうか。

事務局 はい、長年事業をやっておりまして、色々と淘汰されて残ってきた事業です。私たちが考えていることは、グラウンドを使った事業がありませんでしたので、何かそこでできないかと考えています。去年はかけっこ教室をやりました。

A議長 他に何かございませんでしょうか。

私から一つお聞きします。手話にチャレンジがございしますが、良い取り組みだと思います。他市においては手話言語条例を作られている所もあります。センターにおきましても人権啓発推進を促進していく役割を持っていると思いますので、障がい者の権利を守るという意味で、ここだけで教室を行うのではなく、市として手話言語条例を作る必要があるのではないのでしょうか。その必要性をセンターとして訴えてほしいと考えています。先進的な市、例えば明石などでは手話言語条例がすでに作られています。この点に関してどうでしょうか。

事務局 一つの御意見として受け止め、期待に応えられるよう、努力して参ります。

A議長 必要性はあると思います。吹田市は知りませんが、となると、吹田市は人権啓発どうなっているのか、となるでしょうから、ぜひ積極的にやってもらいたいというのが、私の希望です。

事務局 すみません、どこの市とおっしゃいましたでしょうか。

A議長 明石が市としてやっておりますし、県としては鳥取県もやっております。実際明石には私も見学に行きましたけど、障がい者差別解消条例もすでに作られ、障がい者差別を解消していこうという取り組みが多く行われています。合理的配慮の重要性が強く謳われていますので、吹田市でもスロープをレストラン等で設置する補助費を出すということが行われています。ぜひ形を作っていっていただきたいと思います。

事務局

私自身は大阪府と大阪市登録の手話通訳をしまして、地域でも手話サークルに参加しています。毎週水曜日に教室が開かれ、手話を広めていこうという、取組みを続けています。

今手話言語条例のお話がありましたが、鳥取県がスタートと聞いています。作ってお終いではなくて、通訳の派遣の方が大事なのではないかと、ということがありまして、手話ができる人を増やしていこう、という努力をしているところです。ご指摘いただいたことに関して、研究していきたいと思います。

A議長

他に何かございませんでしょうか

B副議長

自習室の活用というものをやられていますが、実際はどのような状況なのでしょう。利用者はここの出身の人たちなのか、またどのようなつながりがここでできるのか等、具体的な様子を教えていただきたいと思います。

事務局

今御質問いただきました自習室の状況なのですが、利用者数についてはそれほど多くない状況です。毎日利用者はおりますが、入られないということはありません。

特に数年前、山田に夢つながり未来館ができてからは、環境が向こうの方が良いみたいでして、コ高校の生徒さんがあちらに行かれるようになりました。

つながりという面なのですが、センターにはお昼ご飯を食べる時間があります。そこで子どもたちと関わったり、休憩中にピアノを弾いていると子どもたちが寄って行ったりと、自然な感じでのつながりは見受けられます。

利用者の出身につきましては、地元出身の方が特別多いということはありません。この時期になりますと市立図書館の方がいっぱいになって、そこからの紹介で来られる方が多くなります。

事務局

先ほど話が出たとおり、山田にも自習室があるのですが、結構人が多く、こちらの存在を知らない方も多いと思われれます。窓口でセンターの自習室もPRさせていただいています。近くの方はこちらを利用していただいた方が良いと思いますので、相互に連携をとっていきたいと思います。

A議長

他に何かございませんでしょうか。
それでは事務局の方からその他何かございませんでしょうか。

事務局

昨年度は広場の管理員が退職されて1人欠員でしたが、10月1日に新たに1人採用いたしました。これで定数が揃いました。

A議長

他に何かございませんでしょうか。
それでは本日審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。